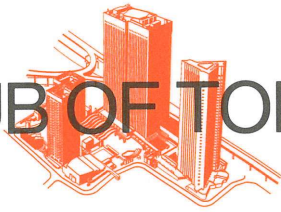




THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

ROTARY: Sow the Seeds of Love

「ロータリー：慈愛の種を播きましょう」

2002～2003年度・国際ロータリーテーマ/ビチャイ・ラタクル会長

「ロータリーで喜びを！ー参加しよう、友達になろう、クラブライフを楽しもうー」

2002～2003年度・東京新南ロータリークラブテーマ/吉田用親会長

【本日の例会】 9月6日 第761回例会

◎卓話 イニシエーションスピーチ

「スペシャルティコーヒーチェーンの経営」

当クラブ会員

タリーズコーヒージャパン(株) 代表取締役社長
松田公太君

【先週報告】 8月30日 第760回例会

◎幹事報告

①第2750地区松崎勝一ガバナー公式訪問/
東京南RC・東京新南RC合同例会のご案内

(日 時) 10月3日(木) 12:30～13:30

(例会場) 東京會館11F ゴールドルーム

TEL (3215) 2111

ガバナー公式訪問は年間の最も重要な行事です。会員の皆様のご出席をお願い申し上げます。出欠の可否を、9/20までに事務局へお知らせ下さい。尚、10月4日(金)の例会は、10月3日(木)の合同例会に振替えました。

②ガバナー補佐公式訪問・第3回クラブ協議会(9月20日(金)例会前11:00～12:00)への出席をお願い申し上げます。

◎親睦活動委員会報告(福島委員長)

新会員の武内会員の奥様にバラの花束を贈呈致しました。

◎出席報告

会員67名/出席40名・欠席27名(出席規定免除者6名)
ビジター3名



8月30日/7件 21,000円

2002～2003年度累計 268,400円

多額の御寄付を有難うございました。

立林英昭 / Dr.Suzuki, today's after lunch speaker, Welcome to our club! 佐々木忠行/鈴木さん、今日は卓話を宜しく御願います。荻野道雄/先週のソングリーダーは大失敗でした。これを教訓に以後気をつけます。清水實/明日は息子の結婚披露宴です。ここでも合唱を歌います。村山公士/お暑うございます。本日早退させて頂きます。武下朗/ニコニコにご無沙汰って良くないですね、これ私のこと。加藤昌明/ニコニコ担当です。有難うございました。

◎バナー交換

早川会員とコンシニ会員より、バナー交換の報告がありました。

＜早川会員コメント＞

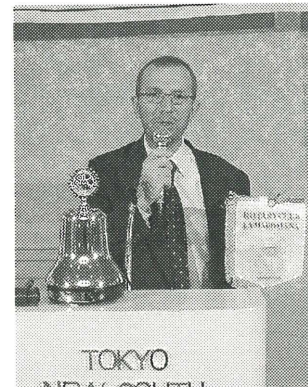


この夏米国本社に出張した際、地元の2つのクラブとバナーの交換をしてきました。

1つは本社のあるミネソタ州ハッチンソン市のクラブ、もう1つはそこから50km程離れた、ゲイロードという人口1900人の小さな町にあるクラブです。

ゲイロードのクラブは小さな町のクラブにも拘らず活発で、特に高校生の留学生を世界中から毎年のように受け入れているようです。

＜コンシニ会員コメント＞



8月の夏期休暇中にイタリアを訪問しました。滞在したのは、サルデーニャ島の北側、丁度サルデーニャ島とコルシカ島の間に位置する小さな島、ラ・マッダデーナ島です。ご存知の方もおられると思いますが、サルデーニャ島はタヒチ島や太平洋の海岸とよく比される美しい島です。ラ・

マッダデーナ・ロータリークラブでは温かい歓待を受け、会合は大変リラックスした雰囲気でした。そこでの会合は通常、美味な白ワインでスタートし、その後バイキング形式のインフォーマルなディナーに移ります。会合は2週間ごとに開催されるそうです。ヨーロッパでは日が長い為、8時や9時になっても傍らの美しい地中海を楽しむ事が出来ます。このクラブは設立してから6ヶ月足らずとまだ日が浅く、メンバーは現在20名程です。皆さんも次の休暇にこのクラブの会合に参加される事を切にお薦め致します。私達はお互いのクラブ旗を交換し、東京新南クラブからの温かな気持ちをお伝え致しました。

古地図を読み解き、都市の“いま”を知る

江戸東京博物館 学芸員

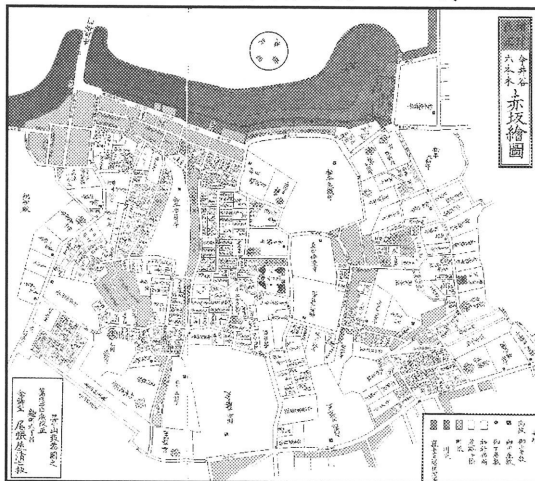
鈴木章生氏



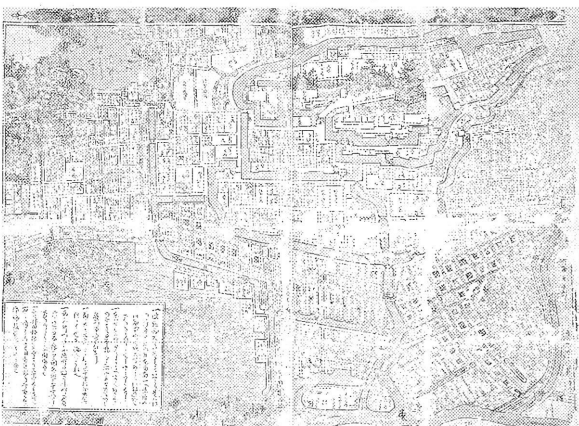
江戸東京博物館の学芸員、鈴木章生氏をお迎えし、“古地図を読み解き、都市の“いま”を知る”と言うテーマでお話を伺った。古地図と言うと、普段触れる機会の少ないせいか“難解で分りにくい”と言った堅苦しいイメージを浮かべやすいが、歴史的推移や、日頃慣れ親しんで

いる具体的地名を交えた鈴木氏の明快な説明により、次第にそう言ったイメージも薄らいでいった。特に、明治以降、国力を強化すべく政府が推し進めた重工業化の波は、その当時の地図にも事細かく描かれていた事には驚かされた。現在の深川地区周辺に建設された多数の工場群の煙突から、煙がモクモクと上がっている状況は、地図の完成度の高さも然る事ながら、当時の人々の洒落っ気も少なからず表現されていたのでは無いだろうか、大変興味深く思えた。我々の先祖が残してきた優れた文化遺産を通じて、日本人が忘れつつある、“歴史の重み”を再認識させてくれた一時だった。(勝山 記)

今井谷六本木赤坂絵図(1861年)



「武州豊嶋郡江戸庄図」寛永9年(国立国会図書館)



「嘉永・慶応 江戸切絵図(尾張屋清七版)」(人文社)より抜粋

森 義利の版画技法「合羽摺り」

私の両親は自宅の家具、調度品、食器、絵画等にとっても気を使って自分達で本当に気に入ったものを捜し求めたり、家具類は自分でデザインし家具屋に造らせたりして生活を楽しんでおりました。私もそんな両親の生活の楽しみ方を多少受け継ぎ、古い家具類や古い陶磁器、絵画等を少々日常生活の中で使ったり飾ったりして楽しんでおります。

そんな中で、絵画で私がとても気に入っております森義利の合羽摺り技法(雨合羽は油で耐水補強した桐油紙を使用していたが、初期の合羽摺りもその桐油紙を型紙として用いていたところから、その名の由来がある)による版画について、お話してみます。

森義利(1898~1992)は川端画学校に学び、柳宗悦や芹沢銈介(染色家 人間国宝)に師事し、工芸や古来の型染技法に興味を抱き、戦後版画制作を開始しました。他の多くの現代版画作家とは異なり、彼は紙の上へ多色摺りをする方法として、織物を型で染め上げる古い技法を採りました。この新鮮な創意こそが、彼の版画の特性を最も明確に決定づけています。

我国では17世紀後半には木版技法による多色摺りの美しい浮世絵の作品が数多く出現しましたが、この木版技法が十分に発達する以前には、京や大阪の摺り師達は、織物染色で使われていた型染の技法をすでに採り入れていました。現代の森義利もこれとよく似た技法を採用し下絵を型染用の型紙と同様の強度と耐水性を持たせるために柿渋で処理した紙に張りつけ、鋭利な刃物で色のかかる部分の渋紙を切り抜きます。各々の色をのせていく時には、色をかけない部分を特殊な糊で蔽ります。

彼の版画の主題は、仏像、民族、田園や祭りの風景、そして江戸時代やもっと古い時代の歴史的テーマなどへの傾倒がうかがわれ、歌舞伎や職人などの伝統的テーマによる創作は、その技法と同様にいつまでも変らぬ新鮮さで描かれています。

我国では明治維新後西洋化の過程で、古来の手工芸が最も被害を被り、新しい技術の採用によって代々伝えられてきた伝統技術は実用的ではない、時代遅れのものとされてしまいました。もしそれらの古来の技法が完全に忘却されてしまえば織物、陶芸、漆工芸、版画等は甚大な被害をうけるところでしたが、明治政府の援助による各種学校の設立により、今日まで多くの古い技術が存続し得たことを、彼の版画を観ながら先達への感謝をささげる一時であります。

【次週予告】9月13日 第762回例会

◎卓話予定

「観光立国」

国際観光振興会 会長

向山 秀昭氏